

18年3月
第293号



身近で実感！大きな時代の変化

30人余が北道路・港湾道路見学楽しむ

歩いて体感！新しい港川の景観



(上写真・北道路) 最初で最後か？橋の上からカーミージーを眺める

(下写真・港湾道路) 広がるイノー 絶景に参加者の会話も弾む

広がる豊かなイノー

カーミージーに歓声も

3月の開通を前に、カーミージーを挟んで架かる2つの海上高架橋見学会が、28日行なわれました。平日、しかも未だ仕上げ工事の最中であり、午前10時から約2時間の開放。今回のスタートは南部国道事務所が所管する北道路「港川橋」か

ら。歩道のない自動車専用道のため、地域住民の徒歩見学も最初で最後の機会かも知れない。

「ここからが橋です」職員の案内、説明を受けながら、空寿崎に向かって伸びる「港川橋」を進む。右手前方にカーミージーの雄姿。左手横は港川の集落。橋の上から見ると、普段とは異なる風景に思える。路上目線で見る青い海も一層映える。参

加した高齢者の中にはかつての港川の光景に重ね「全てが懐かしい。橋が出来てこれからもっと変わっていくだろう」と感慨深く語る人も。



続く港湾道路の海上高架橋は、長年の「里浜活動」で実現した、歴史的経過を実感しながらの見学。約1キロ、両側に歩道を備え、帰りも歩く家族も。きつと浦添の新名所になるはず。干満で姿が変わる浅瀬のイノー、水平線の彼方の夕陽―開通後の新しい光景に早くも夢が広がる。場所を変えたランチタイムも見学会の話題で大賑わいでした。(右写真は港川橋の上 皆で記念に)

18日 西海岸道路開通へ

課題山積の市対応

「4線同時共用開始」という地域との約束も唯一前進が作れない浦添市。里浜条例も制定しながら、殆ど保全策も間に合わせきれない。評議員会は市の行政能力に大きな不信感を持ちながらも、西海岸道路の県民的利益に配慮し、大局的な立場から「18日開通」同意の方向で議論しています。当然、今度は浦添市が旧軍道整備や里浜保全活用等の課題に責任を果たす番です。注目しましょう。

ゆぐいだきるときどき閑話

先月末、政府による突然の西海岸道路「3月18日開通」が発表されて以来、自治会と行政との間で不信感に近いやり取りが続いている。特に浦添市の対応はもはや「無為無策」さえ感じ、開通に伴う課題への認識の隔たりがあまりにも大きすぎる。記念行事として4、5千人を集めたウォークが企画されているが、肝心の「里浜」保全への配慮は全く見られない。自然のイノー活用のルール、マナーも無いまま無秩序に利用されたら、里浜の未来はたちまち危機的状況になりかねないだろう。

簡易トイレさえ、浦添市が造るのは5月。予算がないーというのが理由だ。その間はキンザーゲート近くの県道工事現場を借用するという。これでは観光客にも失礼のはず。だが、愚痴だけでは解決しない。知恵を集め、行動の中で行政の真剣な対応を求めよう！初の里浜条例を活かせるかー市民も力量が問われていく。

つつじ祭り見物 中止に

誠に申し訳ありません。3月実施で検討してきた「つつじ祭り見物」ですが、やはり行事重複やバス確保などの日程調整が困難で、今年度実施を見送るようになりました。

ご寄付に感謝します

公民館隣の「牧港中央パブテスト教会(菅野健太郎牧師)」よりこの程、金一封のご寄付がありました。有り難うございました。